



日本女子大学 文学部 日本文学科の先輩たちから
あなたへのメッセージです。



こうして皆さんに向けたメッセージを書いていると、
新入生の頃あれこれ考えていたことが、懐かしく思い出されます。

自由だからこそ、自分で自分のことを律さなければいけない不安とか、
目の前のちょっとした決断によって、今後の人生がどんどん決まっていって
しまうような怖さとか…。

今まであんなに自分を守り、導いてくれた小中高の先生や友達から
急に放り出されて、まるで大草原に一人ぼっちになってしまったようです。

でも、実際の大学は、そんな恐ろしいところではありません。
ある時先生が、授業中にこんなことをおっしゃいました。
「社会に出たら、理不尽なことも沢山あります。大学は、その一步手前にある
皆さんの居場所です。だから私は時に厳しく接し、時に励まし、
皆さんを社会でも充分通用する人にします。」

本当に心強い、温かい言葉でした。

それにももちろん、あなたのすぐ隣には、あなたと同じように不安を抱え
て、そして同じように日本文学が大好きな女の子がいます。

皆さんは今、とても素敵な環境を選ばれました。どうぞそのことを誇りに
思って、4年間を楽しく過ごされますように。
卒業生として、心から応援しています。

神奈川県立相原高等学校教員

N. I. (2016年度卒業)

合格おめでとうございます。

日本文学科はご存じの通り、日本の言語や文化、文学をより深く、存分に
味わうことのできる場です。好きな分野を掘り下げて学ぶことは楽しく、
そして苦しくもあります。先行研究を探し、正しく理解し、課題に向き合
い、論を構築していく。決して容易ではなく、誠実さや地道さが求められま
す。

すこし不安になってしまいましたか？大丈夫です。先生方が皆さんを温か
く見守り、親身になってサポートしてまいります。そしてなにより、もが
いているうちに必ず表現力や理解力、粘り強さなどあらゆる力を自分のもの
にすることができます。

私は現在、地元の新聞社で記者をしています。情報を集めて精査し、常に
考え、正確な記事にするのが私の仕事です。時には簡単に情報に辿り着けな
いことや記事を厳しく校正されることもあります。大学で培った力を支え
に情報や言葉と向き合っています。

大学4年間は瞬間に過ぎてしまいます。ぜひやりたいことをやり尽く
し、濃い大学生活を送ってください。

日本銀行 勤務

K. O. (2015年度卒業)

私は幼い頃からの国語の教員になる夢を胸に本学へ入学し、教職課程を履
修しました。

その中で、ただ知識を吸収するだけではなく、思考し自分の言葉で表現する
力、これが真の「国語力」なのだと思ふことができました。
この力は今、子どもたちの育成すべき資質能力の一つでもあり、教育におけ
る国語科の重要性を感じました。

また、文学、言語を学ぶことの面白さを改めて実感しました。
高校までの学びとは違う、学ぶ度に生まれる胸のときめきや感動する喜び
を、先生方から教えて頂きました。
次は私が、本学の先生方のように、この溢れる熱い！感動を伝えたい、
そのためにはどうすればよいのかを考え始めた時から、教員への「夢」が具
体的な「将来のビジョン」へと変わり、新年度からは教員として教壇に立つ
こととなります。

国語はすべての学びの根底にあると言われていています。私たちが人間らしく
豊かに生きていくための基となる学問です。
皆さんが4年間、日本文学科で出会うそれぞれの学びが将来の自分の蓄えと
なることでしょう。

下野新聞社 勤務

M. I. (2017年度卒業)

「私は総合型選抜で 来ました。…」

E. M. (現4年次)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！

私は自己推薦で日本女子大学に入学しました。みなさん期待や不安を胸にご入学されることかと思えます。私も入学当初、一般入試で入学する人達との学力差を不安に思っていました。

しかし本学は少人数制の授業も多いため、先生や他の学生とも近い距離感で接することができます。先生に質問しやすい環境がある上に親身になってくれる仲間もでき、その不安は少しずつ払拭されていきました。

大学での勉強は今までとは異なり主体的に臨まなければならず、中学・高校時代とは違う取り組み方に戸惑うこともあるかもしれません。しかし、みなさんの周りには先生、先輩、これからできる学友など心強い味方がたくさんいるので安心してください。

勉強だけではなく部活やサークル、アルバイトなど学生のうちに打ち込みたいことはたくさんあるでしょう。自由にも思える大学生活をどのように過ごすかはみなさん次第です。失敗を恐れずチャレンジ精神をもって頑張ってください！応援しています。

ご入学おめでとうございます！

私はもともと国公立志望で、私立、それも女子大に入るなんて全く考えていませんでした。入試のときに必要だった証明写真、4年間ずっと使うんですよ。そうとも知らず適当に撮ってしまった過去の自分を殴りたいレベルです(笑) こんな私でも今では「この学校以外考えられない！」と思うにまで至りました。

授業は少人数体制で先生方が一人一人丁寧に指導して下さいますし、図書館は広くて綺麗だし、正直言って日本文学を学ぶには最高の環境です！また、素敵な友人に出会える環境でもあります。

女子大なのであたり前ですが、女子しかいません。同性なので話しかけやすく、友達作りには困りませんでした。それに、わざわざ女子大のしかも日本文学科に来るような子はみんなマニアックで面白い子ばかりですよ！お楽しみに！

大学生活はあっという間です。私ももう残り半分もない(無事に卒業できればの話ですが…) ことに本当にびっくりしています。

私のように第一志望でなかった人も他大学への未練は早めに捨てて気持ちを切り替え、素敵な女子大ライフを送ってくださいね。

「私は第一志望では なかったのですが…」

M. H. (現4年次)

合格おめでとうございます！

皆さんは今、これから始まる大学生活に、様々な思いを抱えていることでしょう。私自身、それまで共学に通っていたこともあり、「そもそも女子大ってどんな雰囲気?」「日本文学科ってどんなことするの?」「自分についていけるのかな」などたくさんの不安があったことを思い出します。

そうして不安や緊張いっぱいになった大学生活ですが、今では文学作品に向き合っていく難しさを実感しつつも、一人一人の様々な考え方や捉え方が広く許容される「国語」という科目の面白さを伝えていきたいという気持ちで教職課程に励んでいます。

正直に言うと、教職課程を卒業までしっかり続けることは、大変でもあります。でも、先生方の手厚いご指導があり、仲間同士で励まし合い助け合いながら学んでいける環境が整っているため、絶対に努力し続けることができると言い切れます。その中で私は、コミュニケーション力が高まったとともに、人との関わり大切さ、相手の立場にも立ちながら自分の言葉で伝えていくことの大切さを学びました。

教職課程に限らず、大学では多くの学びが得られ、様々な力が身につきます。そしてそれらは今後の自分の糧に必ずなります。大学生活の中での人とのつながり、多くの経験、その中で学び、全てが貴重です。

それぞれが素敵な4年間を過ごせるよう、充実した環境の中で学べることを大切に思いながら、大学生活を存分に楽しんでください！

「私は教職課程に 励んでいます。…」

T. M. (現4年次)

皆さま、合格おめでとうございます。

「私は附属出身です。…」

私は、「自分らしさ」を大切にす本校の校風に惹かれ、附属中学を受験しました。「自分らしさ」とは、服装や持ち物、お化粧品などの”目に見えるもの”だけではありません。自分はどう生きたいのか。何を学び、何を得たいのか。何を表現したいのか。

N. A. (現3年次)

私たちの内面、言い換えれば”意志”から生まれるものだと思っています。「周りと同じになる/出来るだけ目立たない」をモットーに生きていた当時の私にとって、「自分らしく」生きる本校の先輩たちの姿はとても輝いて見えました。

そして、その印象は日本文学科へ進学した今も、全く変わっていません。本学科の学生は自身の興味や関心に真っ直ぐで、「自分らしい」意見を、「自分らしい」言葉・「自分らしい」表現で、形にしています。もちろん、入学当初から全ての学生が「自分らしさ」を認識し、自信を持っていたわけではありません。私を含め、本学科での学びや交流を通して、少しずつ、しかし着実に「自分らしさ」を見つけ、磨き続けているのだと思います。

日本文学科では、日本文学だけでなく、中国文学や日本語学、日本語教育学、図書館学など、幅広い分野を学ぶことができます。「面白い」「楽しい」と思える瞬間が、きっとあるはずです。その瞬間を見逃さずに、自分の心のままに、真っ直ぐ、誠実に、学びと向き合ってください。「自分らしさ」を、磨き続けてください。皆さまの大学生活が実りある日々になりますよう、心よりお祈りしています。

新入生の皆さん、合格おめでとうございます。

私は高校時代を部活三昧で過ごしました。大学では日本史を学びたいという思いがありつつも、勉強を二の次にしていた日々だったので、自然と指定校推薦で行けるところに行くという選択に落ち着きました。その時、見つけたのが日本女子大学の日本文学科でした。日本文学なら日本史とつながる部分があるのではないかという希望を胸に、無事入学しました。

ところが、周りには受験を乗り越えてきた友人ばかりで、自信を無くす日々。皆さんの中にも学力面での不安を抱いている方はいると思います。

しかし、大学での学びに一番必要なのは、「探求心」であると私は思います。文学に対する興味と疑問、それを読み解こうとする姿勢があるかないかで、得られる学びは変わってくるのではないのでしょうか。文章を読むのが好きな人、嫌いな人。文章を書くのが得意な人、苦手な人。様々だと思いますが、どんな人も数を重ねることにより、身につけていきます。

不安なことがたくさんあると思いますが、置かれた環境のなかで「探求心」を忘れず、有意義な4年間をお過ごしください。

新入生の皆さん、合格おめでとうございます。今、様々な思いを胸に、入学までの日々を過ごしていることと思います。

私は高校卒業後、小学校の教員免許を取得することを目的に、日本女子大とは別の四年制大学に入学しました。しかし、すべての教科の根底となる国語教育に携わりたいという昔からの思いを捨てきれず、中高の国語の教員免許を取得するために、日本女子大の日本文学科に編入しました。

教育系の学部から文学部に編入したため、同学年の学生に比べ、受けなければならない授業数が多く多忙な日々です。ここまで来るのにとても遠回りをしてしまった、高校を卒業して一年浪人した方がよかったのではないかと、思うこともありました。

皆さんも、進路決定について、これでよかったのだろうかと思っている人もいるかもしれません。しかし、私は何一つ無駄になったことはないと思っています。今の自分の選択、思いを信じてください。

もしこれから先、別のものによって変わってしまっても、悩みぬいて出した答えに間違いはありません。日本女子大学で充実した毎日を送ることで、不安は自信に変わっていくはずです。皆さんが入学してくるのを心からお待ちしています。

「私は編入学でした。…」

N. N. (2021年度卒業)